

# 広げよう救命の連鎖

## ～救命処置の普及を目指して～

代表者 山村 將 (医学部医学科4年)

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、救命蘇生の講習会を通して、地域の人々や他大学との交流を深めることを目的とし、救命蘇生のトレーニングコースである「BLS（一次救命処置）」及び「ICLS（二次救命処置）」を自主的に広めるものです。また、「BLS」によって一般市民に救命処置の正しい知識とスキルを普及させ、誰かの大切な人が目の前で倒れた時に、一歩踏み出す勇気を持ってもらうことを第一目標としています。

### 2. 実施期間（実施日）

平成25年5月8日 から 平成26年3月31日 まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、香川大学学生や一般市民の方に対し、一次救命処置であるBLS講習会、二次救命処置であるICLS講習会を開催しました。また、救急に関するイベントに参加したり、他大学の学生との救命救急に関する勉強会を開催しスキルを高めることができました。

#### ① 一次救命（BLS）講習会

<内容>

突然人が倒れた状況を想定して、初期対応（119番通報、AEDを持ってきてもらう、応援の人をよぶ）、呼吸の確認方法、胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法、AEDの正しく安全な使い方等を学んで頂きました。まず、スライドで説明してから、小グループに分かれて実践するという流れで行いました。

普段の講習会ではインストラクター1人に対して、1～3人の受講生という割合で教えますが、リーダー講習会ではインストラクター1人に対して、10人近い人数でしたのでインストラクターの人数を増やすことが課題だと感じました。

<実施日>

- ・「Car Free Day」イベント（9月16日、丸亀町通りで開催、参加者30名）
- ・香川大学サークルリーダー講習会「救急蘇生講習会」  
（8月21日、香川大学幸町キャンパス 大学会館2階、参加者92名）
- ・医学部学祭の「医学展 AED」  
（10月13日、香川大学医学部キャンパス、参加者20名）
- ・「一次救命処置講習会」 三豊サテライトオフィス  
（11月10日、三豊市豊中町農村環境改善センター、参加者3名）



リーダー講習会の様子



サテライトオフィスの講習会

## ② 二次救命処置（ICLS）講習会

### <内容>

一次救命処置だけでなく、心停止で病院に搬送されてきた患者にどのような処置を行うかを学んで頂きました。具体的には、気管内挿管の方法、モニター付き除細動器の安全かつ適切な使用方法、薬剤等を1日かけて学ぶというものでした。

講習会後のアンケートで、受講者から大変満足しているという声を頂きました。12月23日の講習会では、徳島大学医学部の学生の参加も得られ、他大学学生との交流も深めることができました。



### <実施日>

- ・7月21日、香川大学医学部 スキルラボ2階、12名参加)
- ・12月23日、香川大学医学部 スキルラボ2階、8名参加)

## ③ 救護班としての活動

### <内容>

トライアスロンやウォークラリー等のイベントで、緊急時に患者に対して蘇生処置を行うというものでした。

今回は2つのイベントにおいて、幸いにもAEDを使用することはありませんでしたが、イベントに参加した方々に私たちのプロジェクトを知っていただく良い機会となりました。

<実施日>

- ・高松トライアスロン（9月15日、高松サンポートエリア）
- ・糖尿病撲滅キャンペーン「こんぴらウォーク」（11月17日、こんぴら山）



ウォークラリーの様子

#### ④ 今後の予定

- ・香川フィジカルクラブ（2月22日予定、医学部キャンパス、参加者10名）を開催します。講師として松本謙太郎先生（大阪医療センター）、平島修先生（瀬戸内徳洲会）の2名をお招きした講習会です。午前中に呼吸器の診断方法を学び午後には症例検討会を行います。
- ・一次救命処置を普及するビデオの制作（3月中）を行います。ビデオカメラで啓発ビデオを制作しインターネット等で放映する予定です。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業において、講習に参加された方々から、「知識としては知っているけど、実際やるとなると怖いと思っていた。体験できて良かった」「胸骨圧迫（心臓マッサージ）は思っていたより重労働で自分一人では無理だから、大勢の人を呼ばないとかな」「1回だけだと不安なので、定期的にやらんといいかな」といった実感を持った感想を頂きました。講習会では、大人の方々のみではなく、子ども達も講習に積極的に参加して、胸骨圧迫の方法やAEDの使用方法を学んで頂きました。



学際における講習会



商店街における講習会

このプロジェクト事業を実施したことにより、「一人の力だけでなく、周りの人々の協力が大切だ」ということを学んで頂けました。例えば、年配の方々が指示を出し、若く元気な方々が主になって救命に当たるといった役割分担や、高校生以下、中学生・小学生でも、近くに大人が居なくて、友達が倒れた時に何をしなければならないかを学んで頂けたと思いました。地域の幅広い年齢層に対して普及できたと思えます。

また、2010年に救命処置のガイドラインが大きく変更されたため、蘇生方法が数年前の物とは異なっていることを知って頂く良い機会になったと思いました。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

こういったプロジェクト事業を行うことは、自分たちが勉強してきた一次救命処置や二次救命処置について、社会に還元する良い機会だと思いました。人に教えることで、自分達の理解を深め、知識を定着させると同時に、教えることの難しさがわかりました。このプロジェクトは学生主体であるため、実際の現場についての知識不足は否めませんが、香川大学医学部附属病院、救急センターの黒田泰弘先生や濱谷英幸先生のご助言のもと、より正確な知識を提供できるよう努めました。

まず自分が学ばなくてはならないという状況は私たちの自主性を大きく育て、人の命に係わることを教えることで、責任感や社会性を養うことができ大変有意義でした。

今後も救命救急の勉強を怠ることなく、活動が続けていきたいと思っています。



勉強会の様子



トライアスロンの救護班として

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回のプロジェクト申請時では、外部から講師の先生をお呼びして講習会を開催する予定でしたが、予想以上にポスターに使用したインクや用紙に予算を使ってしまい、講師の先生にお支払する予算枠まで使い切ってしまいました。予算案を作成した時点で見積もりが甘かったと思いました。今後新たなプロジェクトを企画する場合は気を付けたいと思いました。

私たちの活動は、「救命処置の普及」や「つながりをつくる」という性質上、1年や2年で成果を出すことが難しく継続していくことが必要です。その過程で備品の劣化が否めませんでした。今回のプロジェクト経費で、トレーニング用パッドを新しく購入させて頂き、より質の高い講習会を行うことができました。

また、今回のプロジェクトで交流を深めた学生や、先生方と共に今後も普及活動に努めていきたいと思えます。このように貴重な体験ができる機会を与えて下さった、香川大学の教員並びに関係者の方々、皆様の援助のおかげで1年を乗り越えることができました。本当にありがとうございました。

## 7. 実施メンバー

代表者	山村 将	(医学部4年)			
構成員	上柴 このみ	(医学部6年)	加藤 諒	(医学部6年)	
	安岐 沙耶香	(医学部6年)	村田 智洋	(医学部6年)	
	礒山 智史	(医学部5年)	大庭 聖也	(医学部5年)	
	中村 杏子	(医学部5年)	福尾 祐介	(医学部5年)	
	井元 裕子	(医学部5年)	荒木 健	(医学部4年)	
	原田 紗千子	(医学部4年)	赤木 千香	(医学部4年)	
	中谷 元	(医学部2年)	粕谷 美帆	(医学部2年)	